

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 児童デイすぎと ちいさな木			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 6日		～	2026年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		～	2026年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の保持している資格として教員免許・保育士・幼稚園教諭・介護福祉士・精神保健福祉士・認定特定行為業務従事者・柔道整復師等があり、またほとんど5年以上の実務経験のある児童指導員として専門支援体制加算対象者が多い施設となっている。	それぞれの資格で学んできた力をそれぞれの職員にプログラムに生かしてもらっている。例えばリズム運動では保育士にピアノを弾いてもらったり、手遊びや読み聞かせ等に対応してもらっている。身体障がい児には介護福祉士や柔道整復師が主に対応している。また教員免許保持者には学習支援なども対応してもらっている。	それぞれの得意分野で活躍してもらおうと同時に他のプログラムも担当してもらい出来ることを増やし、職員同士が助け合い良い支援が提供出来るように取り組んでいきたい。
2	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能施設であるため一人の児童の成長を長く見ることが出来、成長の過程を見ているためライフステージごとの課題に対応しやすい。そのため放課後デイの子供たちの成長を見ながら、残っている課題に対して幼児期に何をすべきかを検討することが出来る。	幼児期(児童発達支援)においては何に重点を置いて療育していくことが大切であるのか、また同じ幼児期であっても発達に課題のあるお子さんにはそれに加えてどのような療育が必要であるのかを研修等を通じて専門的な知識を元にした支援に努め取り組んでいる。またデイの児童が通っている幼稚園の理事長に来ていただき木と星とで合同研修をしたが保育の中での発達障害児の成長の記録を見ることで幼児期でやっておくべきことそして本当のインクルーシブとは何かを職員全体で考える機会を得たことは特筆に値する。	児童発達支援は身辺自立(トイレや食事)や基本的な生活習慣、運動、言葉など療育する内容や範囲が広く、またどれも大切な内容であるため領域ごとにさらに専門的知識を職員全体で得て共有して実践していきたい。そして職員も療育の世界のみに浸かるのではなく連携の取れている幼稚園に定期的に行き見学と研修を受け、常にインクルーシブとは何か、そしてその課題を考えていく意識を持ち続けていきたい。
3	関係機関(市役所・相談支援専門員・幼稚園・保育園・学校など)との連携がととも取れており、一人の児童に対して関係者が共通に認識をもって全体で支える体制が出来ている。また家族支援にも力を入れている。	モニタリング時には必ず相談支援専門員と直接時間をかけて児童の様子を把握し、状況を知ってもらうと同時に関係者会議が必要な時は相談支援専門員に依頼し、話し合いの場を設定してもらっている。また幼稚園と併用利用している児童においてはその児童の幼稚園に出向き、幼稚園の様子を見たとご家族も一緒に同席の上お互いの成長の様子や課題を話し合っている。さらに毎月ご家庭アンケートをご家族に記入していただき、幼稚園・保育園の様子やご家庭の様子、そして困りごとなどを把握し、特に困りごとや相談事に就いては可能な限り対応し、必要があれば面談をさせていただいている。	左記については継続していくとともに自立支援協議会の研修等に積極的に参加し、地域の課題を把握しながら、社会資源の情報を得て、児童は皆いづれ成人となっていくという意識と視野をもって将来を見越したアドバイス等ご家族に出来るよう取り組んでいきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援と放課後等デイサービスとの多機能型施設となっていることもあり、児童発達支援の開始時間(11:00)が他事業所より遅く、就労しているまたはしたい親御さんにご不便をおかけしているのではないかと考えている。	児童発達支援施設を独立させれば開始時間を早め、就労されているご家族のお子さんの受け入れも可能となるのではないかと考えている。しかし施設の増設にあたっての人材の確保等が課題となっている。	ご不便をおかけしている分、内容については充実させ、満足していただけるようにしていきたいと考えている。また将来法人として独立させていく方針となることをみ越して人材の動向を日頃から把握していきたい。
2	環境面では雑居ビルの1室を借りての事業であるため、他室で火災などの非常事態が起こった場合や騒音には避難や配慮等が必要となる。またトイレが一つしかなく、混雑することもある。	避難についてはさまざまな児童がいるためスムーズに避難できるわけではないので、他室からの非常事態に気づくのが遅くなった場合に危険である。	引き続き定期的な避難訓練をし、ひとりひとり非常事態時の行動を把握することや防音対策、またトイレについては分散した声掛けと誘導、また将来的にはトイレの改修・増設を考えていく
3	児童発達支援の児童の送迎および添乗、放課後等デイサービスの児童の送迎と添乗についてはドライバーのみならず職員も行っているため人手不足が生じる時間帯があったり、記録等が少ない職員で対応し終了時間を過ぎることが多い。特に幼児については職員数が必要(1対1行動が多い)であるので課題である。	ドライバー専門の短時間パート職員がなかなか確保出来ない。	引き続きドライバー短時間パート職員の確保に努め、また保育ボランティア等を検討していきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援 児童デイすぎと ちいさな木

公表日 2026 年 3 月 30 日

利用児童数 10 回収数 7

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからな い	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5	1		1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6			1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7					
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6	1			ある程度の固定化も必要な気がします。その子に合わせたプログラムなら嬉しいです。	ちいさな木では「リズム」と「集会」の二つのプログラムは固定化されていますが、その内容は利用児童に合わせて強化すべき運動種目を行ったりや集会では認知レベルに合わせて内容での教材を提供しています。それら以外では公園遊び、創作、料理、個別など楽しめる取り組みを行っています。
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	7					
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1		1		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	7					

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	6	1				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	2		2	きょうだい向けのイベントがあれば参加したいです。 まだ交流会には参加できていないが、都合が合えば参加したいです。	保護者会は年に1回開催しており、お茶会を兼ねて保護者同士で悩み事を話し合うなどの交流をしています。しかし兄弟向けのイベントはまだ経験がなく、ご家族の意向を踏まえて検討していきたいと思います。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1		1	もっとSNSで活動している様子を掲載してほしい。	申し訳ありません。担当者に意見を伝え向上に努めます。SNSではありませんが、年に3回の通信も楽しみにしています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5			2	行なわれていると思うが、情報や報告があればわかりやすいです。	訓練はしっかりと行っており、通信にその様子を写真と共に載せてはありますが、大切なことですので、報告ももう少し詳細に掲載していこうと思います。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7					
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				いつもありがとうございます。 ただ預かるだけでなく、その子の特性を理解して伸ばしていただけてありがたいです。 子どもが行くのを楽しみにしています。 あと少しですが、よろしく願いいたします。	そのように言っただきありがとうございます。今後とも一人一人の個性および特性に合わせて配慮させていただきながら、どの子どもも持っているその子しかない良さを伸ばして、ご家族の方に通わせて良かった、デイにお子様が行きたいと思っただけの事業所にしていきたいと思っています。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 児童発達支援 児童デイすぎと ちいさな木

公表日 2026年3月30日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	個室になるべく物を移動して広く使えるように工夫している。 プログラムによって物を移動させて確保している。	利用人数が増えた場合に狭く感じるかもしれない。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	2		シフトによっては少ない日がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	0	こどもにわかりやすく工夫している。 床材を変更したり、問題があれば都度解決している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	分かりやすく安心して過ごせるようにスタッフも気にかけている。	真冬に床が少し冷たい。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	2	パーティションなどで対応している。	収納スペースがいっぱいで個室の使用が難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0	その日のうちに話し合いをしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	意向を受けてすぐにゼンスタッフに伝え対応を考えるミーティングを行っている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	その日に起こった問題などをすぐに話し合い、改善策を話しあうようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	4		よくわからない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	支援の振り返りを必ずしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	1		出来ているところとできていないところがある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	4		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	1		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	連絡帳、ご家庭アンケート、電話等によりすぐに対応している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	3		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0			
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0			

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	アンケート等で問題提起があればすぐ対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	父母の会はないが、行事には父母兄弟の参加を求めている。	都合がつかず父母兄弟の参加はあまりされていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	送迎時に会話でも、言葉に気を付けている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	0	行事に参加いただき、子どもたちの様子を見ていただいている。	
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	1	
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1		
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0		
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			該当する利用者がいない	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1	安全に気を配り、予測しづらいこどもたちの動きにも、スタッフで見守りを行っている。	
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1		
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0		
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。			該当する利用者がいない		